

イオンの環境表示の取り組みについて

イオン株式会社
責任者GX担当 兼
環境・社会貢献部長
渡邊 祐子

	方針	マイルストーン
1 脱炭素社会 の実現	脱炭素ビジョン	■ <u>目標</u> 2040年までに店舗で排出するCO₂等を総量でゼロにする (中間目標) 2030年までに店舗使用電力の50%を再生可能エネルギーに切り替え
2 生物多様性 の保全	持続可能な調達	■ <u>達成水準</u> グローバル基準に基づき、「農産物」「畜産物」「水産物」 「紙・パルプ・木材」「パーム油」「カカオ」「コーヒー」で持続可能性に 配慮して生産された商品の調達を推進する
3 資源循環の 促進	食品廃棄物削減	■ <u>目標</u> 2025年までに発生原単位で食品廃棄物を50%削減する(15年比) 食品資源循環モデルの構築 全国10カ所以上
	プラスチック削減	■ <u>目標</u> 持続可能なプラスチック利用を目指す (中間目標) 2030年までに、使い捨てプラスチック使用量を50%削減(18年比) すべてのPB商品で環境・社会に配慮した素材を使用 PB商品のPETボトルを100%再生又は植物由来素材へ転換

トップバリュの環境配慮への取り組みについて

取り組み施策

1

脱炭素社会 の実現

- 2025年までにすべてのトップバリュ商品を環境配慮商品に100%切り替え
- 温室効果ガスの排出量可視化の取り組み



1個当たりのCO₂排出量1.81kg-CO₂eq

2

生物多様性 の保全

- グリーンアイブランドの拡大
- 持続可能な原材料調達の継続推進
- アニマルウェルフェアへの取り組み（平飼いたまご）



3

資源循環の 促進

再商品化への取り組み

- PETボトル(ボトルtoボトル)
リサイクル原料化の推進
- 再生紙(ペーパーtoペーパー)
古紙回収ボックスをイオングループ各社に設置し
回収したものを再び商品化
- ストレッチフィルムの再利用(フィルムtoフィルム)
荷物を運ぶときに使う梱包用フィルムをリサイクル原料に使用



トップバリュ 環境配慮「3R」マーク

容器をくり返し使用できる場合や、これまで廃棄していたものを再利用したり、バイオマス素材、リサイクル素材、紙などの環境に配慮された素材を商品や包装に使用し、化石由来のバージンプラスチックを削減した商品に付与するマークです。

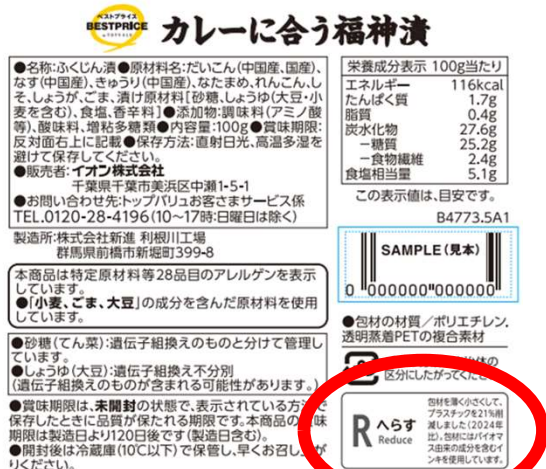
へらす Reduce <u>森や樹の緑色</u> ・プラスチック使用量を単純削減 ・プラスチックを環境配慮素材に置き換え - バイオマス - 紙 等※1	くり返し使う Reuse <u>大地や土の茶色</u> くり返し使用できる ※一般的に「使い捨て」するもの	リサイクル Recycle <u>海や水の青色</u> 原材料にリサイクルプラスチックを使用 分別が容易でリサイクルできる
--	--	--

※1: 新たな環境負荷にならない再生可能資源(例: バガス、木質、竹などの天然資源で他の製品を製造する際に副次的に排出される資源や、製造の過程で排出される廃棄物などを利用したもの)

※トップバリュの3Rマークは、環境省で定められる、自己宣言による環境主張「タイプⅡ環境ラベリング」に該当します。

トップバリュ 環境配慮「3R」マーク使用時の表示ルール

- 表示にあたっては、下記を必ず表記しています。
 - 1) ①包材/商品いずれか ②全部/一部いずれか(「全部」は省略可)
 - 2) ①どこに ②何を ③どうしたか
- 「削減」について言及する場合は、比較年(または年・月)を表記しています。
- 表面に簡易表示、裏面に詳細表示をしています。



R

へらす Reduce

包材を薄く小さくして、プラスチックを21%削減しました(2024年比)。包材にはバイオマス由来の成分を含むインキを使用しています。



R

リサイクル Recycle

包材にはリサイクル原料を80%使用した素材を配合しています。(包材全体に対し79%)

薄肉化

包材を薄肉化



Rへらす
Reduce

包材を薄くし、プラスチックを17%削減しました(2024年比)。
包材にはバイオマス由来の成分を含むインキを使用しています。

カップを薄肉化



Rへらす
Reduce

カップを薄くして、プラスチックを20%削減しました。(2023年比)

小型化

包装形態を 巾着からピローへ変更



Rへらす
Reduce

袋を小型化し、プラスチックを33%削減しました(2023年8月比)。
包材にはバイオマス由来の成分を含むインキを使用しています。

サイズを小型化



Rへらす
Reduce

包材を小さくし、プラスチックを10%削減しました(2023年比)。

なくす・使わない

ラベルレスボトル



Rへらす
Reduce

※ラベルをなくしました

トレイとラベルを なくす



Rへらす
Reduce

トレイ、ラベルをなくし、プラスチックを43%削減しました(2024年比)。包材にはバイオマス由来の成分を含むインキを使用しています。

置き換える

外装に紙を使用 個包装にバイオマス原料を使用



※外装を紙に変更
個包装にバイオマス素材を5%使用

包材に紙を使用



Rへらす
Reduce

ポリエチレンを紙に変更し、プラスチックを35%削減しました。(2020年比)

リサイクル素材使用

包材や商品にリサイクル原料を使用



R リサイクル
Recycle

外袋にはリサイクル原料を20%使用しています。

R リサイクル
Recycle

商品にはリサイクル原料を10%使用しています。



R リサイクル
Recycle

袋にはリサイクルPETを80%使用したフィルムを配合しています(包材全体に対して14%)。

商品表示だけでなく、トップバリュ.NETでも取り組みを伝えています。



<https://www.topvalu.net/sustainable/>

リサイクルできる

分別が容易

「スポッとecoボトル」で簡単解決！

もったいない をへらした環境に **やさしい** 商品です



※内容器はお住いの市町村の分別ルールに従ってください。

R リサイクル
Recycle
へらす
Reduce

外ボトルと内ボトルを分別できるため、外ボトルをリサイクルできます。
ボトルを薄くして、プラスチックを11%削減しました(当社同容量の既存ドレッシングボトル比)。



R リサイクル
Recycle

※外容器とプラスチック製の内容器を容易に分別できます。

※お住いの市町村の分別ルールに従ってください。

取り組み

- ・グリーンに関する問題点を科学的に把握・可視化し、真実を的確に発信
- ・一般消費者に誤認されることなく、明確に分かるように表示

課題

- ①自己宣言型の環境配慮表示は企業毎に異なっている。
- ②消費者はどの表示が本当に信頼できるか判断しにくい。
トップバリュの取組み(解決策)
⇒信頼を得るためにエビデンスを取得し、確かな情報を元に「3R」マークを付与
⇒自然由来の原料は、国際的に信頼性の高い第三者認証を採用
- ③環境表示が消費者の購買につながない場合があり、取り組み内容についてお客さまに開示、コミュニケーションで周知する必要がある。
トップバリュの取組み(解決策)
⇒サステナブルへの取り組みを「商品」に反映し、お客さまの生活接点に合わせて最適な情報をWEBや店頭でわかりやすくお知らせを実施
- ④日本の環境表示基準とEUやアメリカの環境表示基準が異なる。